

龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記 8,9,10> 各種総合原価計算

全8枚



無料講座

月に一回

質問も無料ぜよ



最近の出題事例

- 137回 (組別+P/L) 簡単
- 131回 (工程別) 簡単
- 130回 (単純) 材料2種類 少々難
- 129回 (組別) 簡単
- 128回 (等級別) 簡単

弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座 (無料動画で公開中)

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

8回目. 等級別総合原価計算



複数製品の原価計算をもっとも簡単な手続きで計算する方法です
イメージとしてはポテトのSとLサイズがわかりやすいでしょう

ポテト 500g にかかった原価が 1,500 円

Lが 10 袋、Sが 10 袋

1,500÷20 でいいでしょうか？良くないですね。

Lの量はSの量の2倍と仮定します。計算してみてください

Sに換算すると、30袋分ですね

$1,500 \div 30 = 50$ 円

という事はLの原単価は 100 円ですね

この割合 (1 : 2) の事を等価係数といいます。

では例題を解きながら考え方および、計算方法を説明します

<例題>

当社は、単一工程で製品 X と製品 Y を量産し、等級別総合原価計算を行っている。

下記の【資料】に基づいて、製品 X と製品 Y の完成品単位原価を求めなさい。

ただし、原価配分の方法は先入先出法で行うものとする。

【資料 1】

	生産データ	直接材料費	加工費
月初仕掛品	600 個 (50%)	190,000 円	245,000 円
当月投入	3,800 個	950,000 円	1,005,000 円
合計	4,400 個	1,140,000 円	1,250,000 円
月末仕掛品	400 個 (80%)		
完成品	4,000 個		

【資料 2】

完成品の等価係数

等級製品	X	Y	合計
等価係数	1.0	0.6	—
完成品量	2,500 個	1,500 個	4,000 個

【答案用紙】

等級製品 X () 円/個

等級製品 Y () 円/個

【解答】

等級製品 X (650) 円/個

等級製品 Y (390) 円/個

9回目. 組別総合原価計算

同じ製造ラインで、別の製品（似たもの）をつくる場合の計算方法
自動車・時計 Etc いろいろな分野で使われている（いた）ようです
ただ最近ではFOAの進展で、色々な手法で「より精度の高い」原価計算が行われている

今日は、私が昔バイトをしていたユーハイムのケーキでイメージしましょう



ケーキの生産手法はほとんど同じ
イチゴショートとメロンショートでは使う材料が違うだけ

加工費（コンベアのレンタル料金とします）は使う時間で按分すれば簡単に計算できます

では、例題を確認しましょう

組別総合原価計算を採用している当社の当期における次の資料に基づいて、各問に答えなさい。

【資料】

(1) 生産データ

	X 製品	Y 製品
期首仕掛品	—	—
当月投入分	1,000 個	1,200 個
合 計	1,000 個	1,200 個
月末仕掛品	400 個	400 個
当期完成品	600 個	800 個

(注)原材料は工程の始点ですべて投入される。また、期末仕掛品の加工進捗度はすべて 50%である。

(2) 原価データ

	X 製品	Y 製品	合計
直接材料費	1,000,000 円	960,000 円	1,960,000 円
直接労務費	600,000 円	400,000 円	1,000,000 円
組間接費	各自計算	各自計算	3,000,000 円
合 計	?	?	5,960,000 円

(注)組間接費は、直接労務費を基準として各製品に配賦する。

問1 組間接費の各製品に対する配賦額を計算しなさい。

問2 X 製品の完成品総合原価と期末仕掛品原価を計算しなさい。

【答案用紙】

問 1

X 製品への配賦額 (円)

Y 製品への配賦額 (円)

問 2

X 製品完成品総合原価 (円)

期 末 仕 掛 品 原 価 (円)

【解答】

問 1

X 製品への配賦額 (1,800,000 円)

Y 製品への配賦額 (1,200,000 円)

問 2

X 製品完成品総合原価 (2,400,000 円)

期 末 仕 掛 品 原 価 (1,000,000 円)

10回目. 工程別総合原価計算

個別原価計算では部門別に原価計算を行いました。より精度の高い間接費の計算という意味でした。実は部門別計算には、責任会計という概念があります。どの部門で原価がかかりすぎているかを確認するのですね。

総合原価計算でも、部門別に計算する事で原価のかかり具合を確認する事ができます。特に加工費のかかり具合を確認する事で、改善活動につなげる事ができるのです。

簿記の問題として考え方は簡単です

では、これも例題を解きながら解説しましょう

CMC工場では、2つの工程を経て製品Xを連続生産しており、墨加法による工程別総合原価計算を行っている。製品Xの当月の生産実績は次の通りであったとして、工程別の仕掛品勘定の（ ）内に適当な金額を記入しなさい。なおCMC工場では、第1工程、第2工程ともに、平均法を用いて原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品原価を計算しなさい。

【資料】

	第一工程	第二工程
月初仕掛品	200kg (1/4)	400kg (1/4)
当月投入	1,400 kg	1,200 kg
合計	1,600 kg	1,600 kg
月末仕掛品	400kg (3/4)	500kg (2/4)
仕損	—	100kg
完成品	1,200 kg	1,000 kg

(注1)原料は全て第1工程の始点で投入される。

(注2)第2工程の終点で仕損が発生している。それは通常発生する程度のもの(正常仕損)であるので、仕損費は全て完成品に負担させる。

(注3) () 内の数値は加工進捗度を示している。

【答案用紙】

仕掛品—第1工程 (単位：円)

月初有高：		次工程振替高：	
原料費	(40,000)	原料費	()
加工費	(65,000)	加工費	()
小計	(105,000)	小計	()
当月製造費用：		月末有高：	
原料費	(200,000)	原料費	()
加工費	(310,000)	加工費	()
小計	(510,000)	小計	()
	(615,000)		()

仕掛品—第2工程 (単位：円)

月初有高：		当月完成高：	
前工程費	(80,000)	前工程費	()
加工費	(95,000)	加工費	()
小計	(175,000)	小計	()
当月製造費用：		月末有高：	
前工程費	(?)	前工程費	()
加工費	(445,000)	加工費	()
小計	(925,000)	小計	()
	(1,100,000)		()

【解答】

仕掛品－第1工程 (単位：円)

月初有高：		次工程振替高：	
原料費	(40,000)	原料費	(180,000)
加工費	(65,000)	加工費	(300,000)
小計	(105,000)	小計	(480,000)
当月製造費用：		月末有高：	
原料費	(200,000)	原料費	(60,000)
加工費	(310,000)	加工費	(75,000)
小計	(510,000)	小計	(135,000)
	(615,000)		(615,000)

仕掛品－第2工程 (単位：円)

月初有高：		当月完成高：	
前工程費	(80,000)	前工程費	(385,000)
加工費	(95,000)	加工費	(440,000)
小計	(175,000)	小計	(825,000)
当月製造費用：		月末有高：	
前工程費	(480,000)	前工程費	(175,000)
加工費	(445,000)	加工費	(100,000)
小計	(925,000)	小計	(275,000)
	(1,100,000)		(1,100,000)